

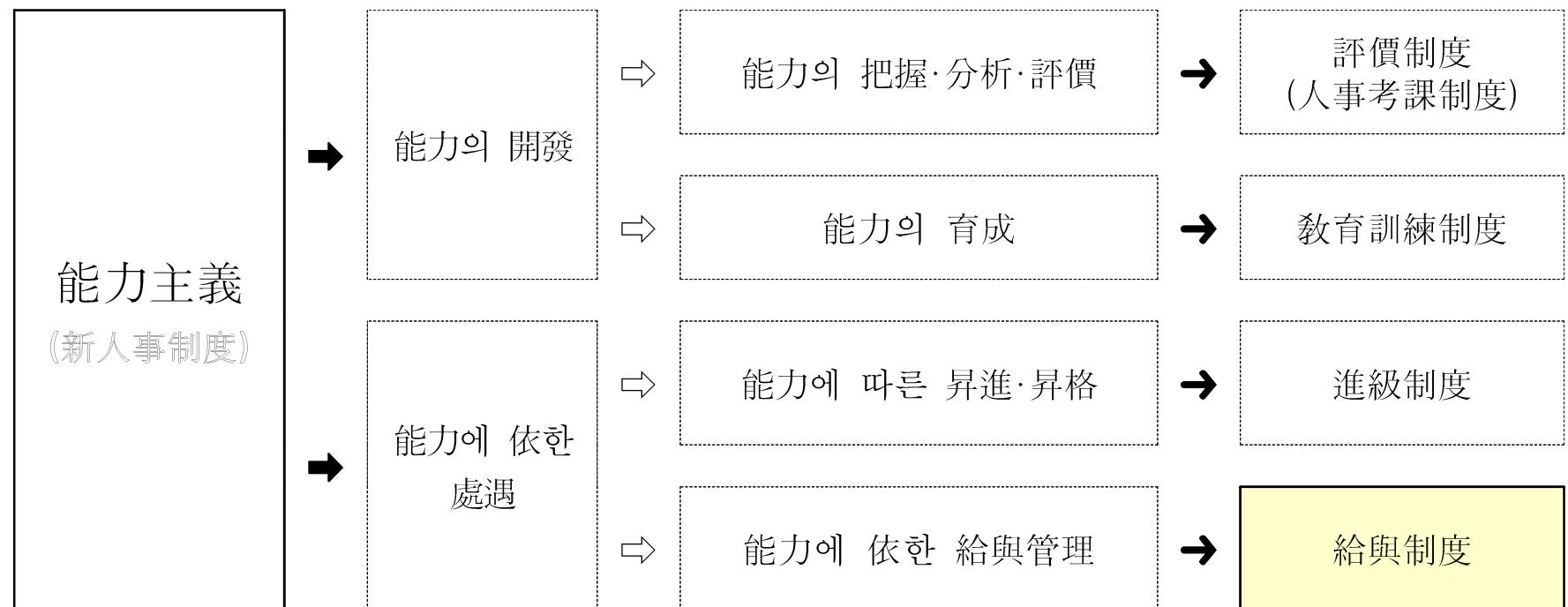
C-6 : 연봉제 도입회사 사례

OO(株)의 年俸制

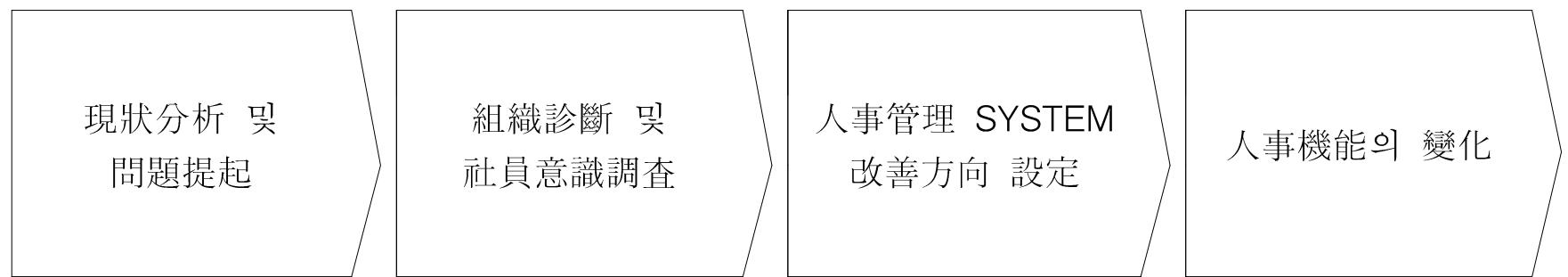
目 次

1. 新人事制度의 基本理念 定立	[2]
2. 人事制度의 GLOBAL STANDARD 推進 現況	[3]
3. 年俸制 導入 背景	[7]
4. 年俸制 導入 目的	[9]
5. 年俸制 紿與 體系圖	[10]
6. 年俸制 運用 原則	[11]
7. 年俸額 決定 方法	[12]
8. 年俸額 決定 節次	[15]
9. 本部長/事業部長 評價	[16]
10. 年俸制 實施對象 擴大	[21]
11. 向後 課題	[22]
12. 添附	[23]

1. 新人事制度의 基本理念 定立



2. 人事制度의 GLOBAL STANDARD 推進 現況



• 94年 2月

• 94年 5月 ~ 7月

• 94年 9月

• 人事管理의 事業部 責任
運營 原則 確立

• T&D컨설팅 診斷研究
팀(設問/面接調查)

- 採用管理制度
- 經歷開發制度
- 職級體系
- 服務管理制度
- 級與管理制度
- 評價制度
- 進級制度
- 賞罰制度
- 教育訓練制度
- 福利厚生制度

-出勤簿 및 休暇願
作成制 廢止(98年 1月)

-出張命令書 作成制 廢止
(2000年 4月)

採用管理制度

- 無資料 面接制度
(BLIND INTERVIEW)
- 先輩社員 面接制度
(94年 11月)
- 인터넷 常時採用制
構築 中
(2000年 下半期)
- 派遣社員 勤務制度
(94年 2月)
- 試用採用制度 全面 擴大
實施(2000年 3月)

經歷開發制度
(配置轉換制度)

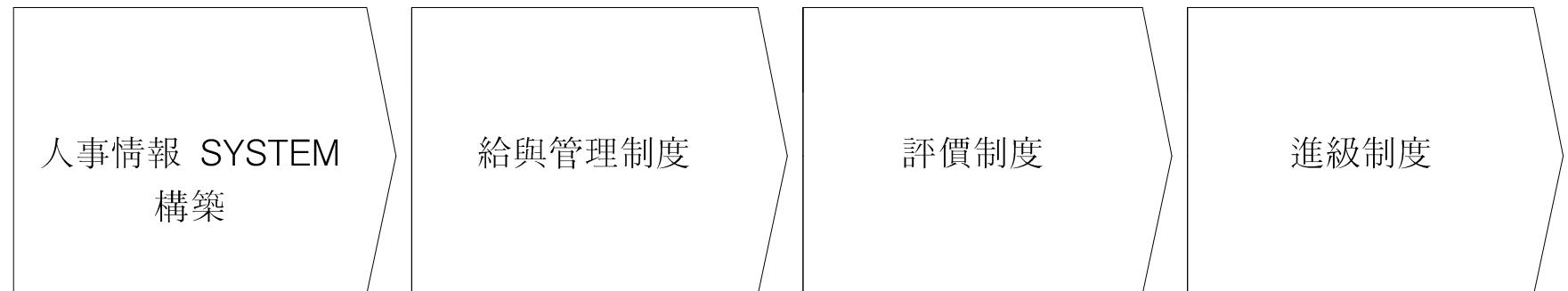
- 自己申告制 導入
(94年 12月)

職級體系 變更

- 職級數 吳 職級呼稱
變更(95年 1月)
- 新人事制度의 積極導入
段階 마련

服務管理制度

- 土曜隔週休務制(94年1月)
- 土曜休暇優待制(95年1月)
- 身元保證制度 廢止
(95年 6月)
- 在宅勤務 吳 無給休職制
實施 (98年 2月)
- 月1回 共同休務制 實施
(2000年 8月)



・個人別 人事情報 公開
(99年 1月)

・個人別 紙と源泉徴収領の本人
自動 発給(99年 1月)

・在職證明書 本人 自動
發給(2000年 5月)

・年俸制 導入・擴大
96年 1月-部長,次長
98年 1月-次長待遇
99年 1月-課長
00年 1月-課長待遇
代理

・退職金 中間精算金額
確定(98年 3月)

・人事考課制度 内容 公開
(94年 12月)

・人事考課 方式 變更
98年 12月-綜合的評價
00年 12月-絕對評價

・評價項目에 依한 評價
結果 反映 (99年 12月)

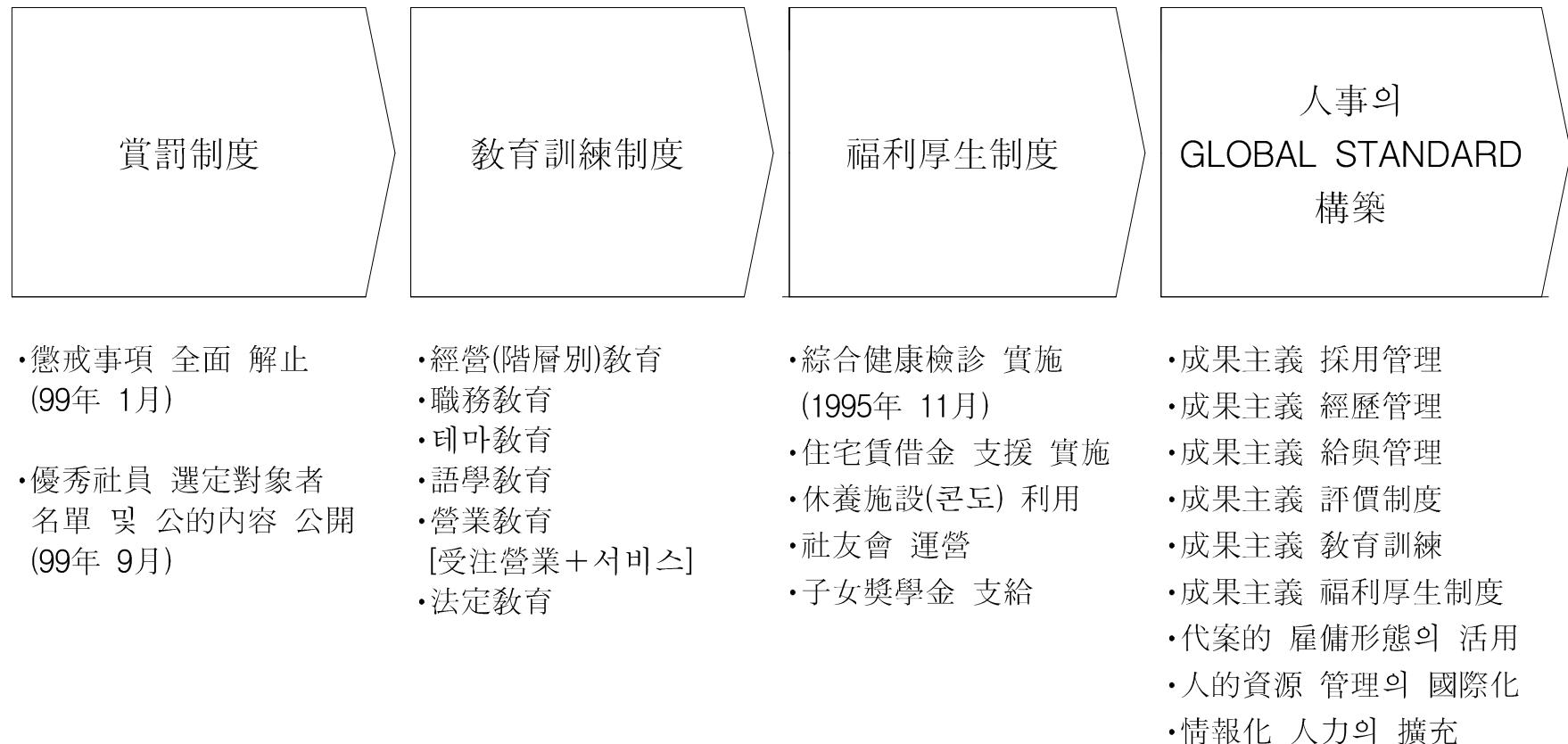
・人事考課+年俸評價 =
人事評價(2000年 12月)

・特別昇進制 導入・擴大
96年 1月-次長,次長待遇,
課長待遇

00年 1月-課長,代理

・同僚評價(昇進審査委員會)
實施
(2000年 12月)

・昇進 및 年俸審査 對象
(1~4級) 區分
(2000年 12月)



3. 年俸制 導入 背景

1. 經營環境의 變化

- 國家經濟體系
- 傳統的 官僚主義的 組織構造
- 組織과 人力의 BUBBLE 現象

2. 建設環境의 變化

- 受注中心의 都給事業
(供給者 主導)
- 低附加價值 및 勞動集約的 工事



- 世界經濟體系
(國境 없는 無限競爭時代)
- 環境變化에 善應하는 彈力的·創意的 組織
- 組織의 SLIM化, 人力의 精銳化



- 需要를 創出하는 開發事業 中心
(需要者 主導)
- 高附加價值 및 技術集約的 工事

2. 建設環境의 變化

- 價格中心의 談合入札
(官·民 發注市場 兩分)
- 施工人力 中心

3. 人事環境의 變化

- 行政 人事
(獨立機能으로서의 人事)
- 人事에 대한 單純 欲求
- 年功序列에 依한 劃一的 處遇
方式

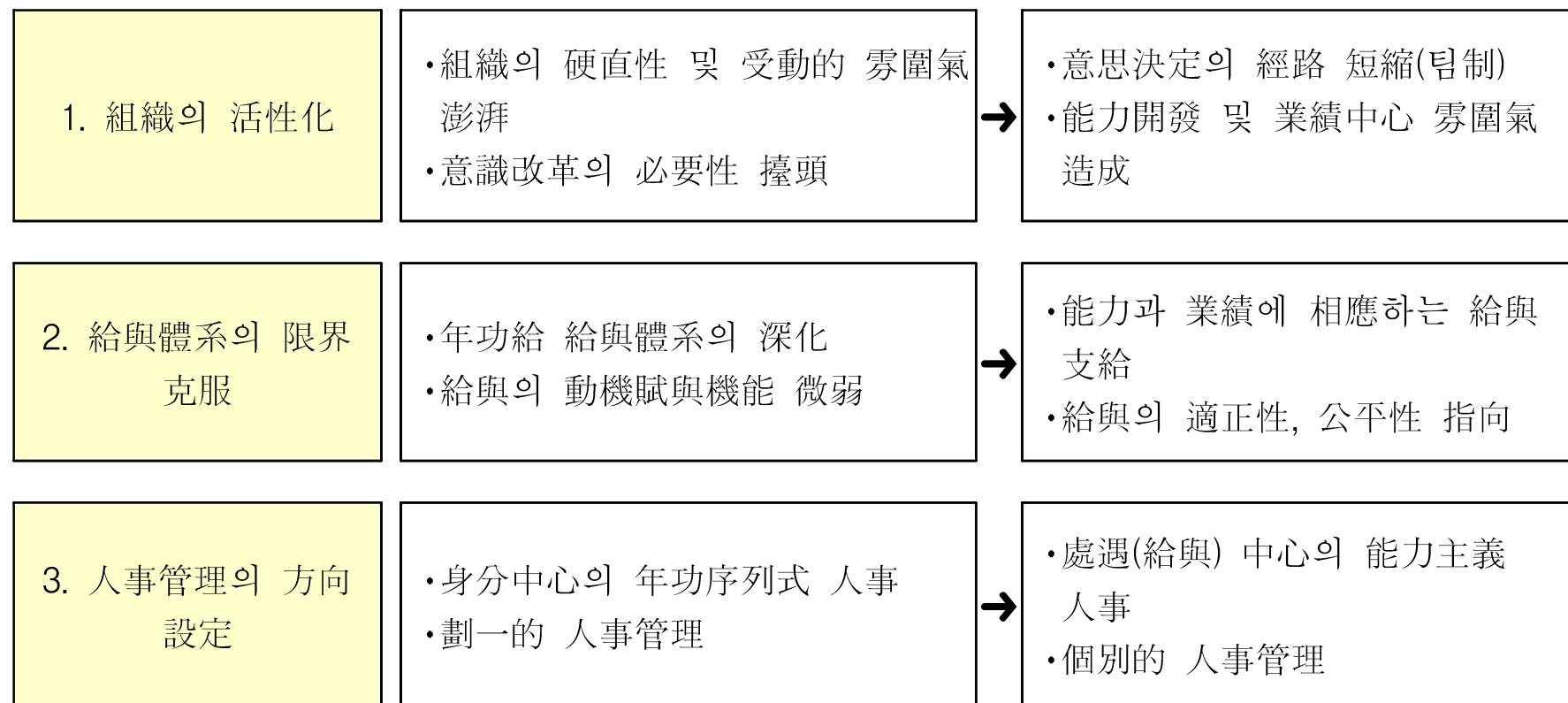


- 技術中心의 自由競爭入札
(民間市場 主導)
- TURN KEY 및 CM 遂行能力을
갖춘 人材 必要



- 戰略 人事
(中心機能으로서의 人事)
- 人事制度의 差別化·多樣化 欲求
- 業績과 能力에 따른 差別的 補償
欲求

4. 年俸制 導入 目的



5. 年俸制 紿與 體系圖



6. 年俸制 運用 原則

對象	<ul style="list-style-type: none">• 96年 1月부터 實施• 1級(部長), 2級(次長) 社員에 限하여 實施
級號體系	<ul style="list-style-type: none">• 既存 號俸體系 磨止 → 職級別 年次管理體系로 轉換• 職級別 基準金額 設定<ul style="list-style-type: none">- 年俸對象으로의 昇格者 및 經歷社員 入社者の 年俸策定時 使用• 紿與TABLE에 依한 紿與一括調整方式 脫皮
年俸의 支給方法	<ul style="list-style-type: none">• 1年單位의 年俸制形式의 紿與形態로 年俸額을 18分割하여 支給<ul style="list-style-type: none">- 年俸額 = 紿與 部分(12/18) + 賞與 部分(6/18)• 賞與支給時期는 年俸非對象者(5級社員 以下)와 同一
年俸契約	<ul style="list-style-type: none">• 每年 1月 1日附 當該年度 年俸契約 締結 (勤勞契約이 아님)• 年俸有效期間은 1年單位

7. 年俸額 決定 方法

- 1) 當該年度 昇格者- 本部長 昇給額(100%) + 昇格 昇給額
- 2) 昇格 漏落者 및 昇號者- 本部長 昇給額(80%) + 考課 昇給額(20%)
- 3) 本部長 昇給額- 本部長(事業部長) 評價에 依한 昇給額

評價等級	S	A	B	C	D
人員	5%	10%	70%	10%	5%
昇給額	昇號者	$0.8X \times 200\% + 0.8Y$	$0.8X \times 150\% + 0.8Y$	$0.8X \times 100\% + 0.8Y$	$0.8X \times 50\% + 0.8Y$
	昇格者	$X \times 200\%$	$X \times 150\%$	$X \times 100\%$	$X \times 50\%$

• X : 給與TABLE에 依한 該當 職級 給與引上額

Y : 給與TABLE에 依한 昇次(號)에 따른 基準金額 引上額(年次額)

4) 考課 昇給額- 人事考課에 依한 昇給額

評價等級	S	A	B	C	D
人員	5%	10%	70%	10%	5%
昇給額	$0.2X \times 200\% + 0.2Y$	$0.2X \times 150\% + 0.2Y$	$0.2X \times 100\% + 0.2Y$	$0.2X \times 50\% + 0.2Y$	$0.2X \times 0\% + 0.2Y$

- 人員配分率 및 昇給額은 會社의 經營 與件 및 該當 期間의 經營 成果 等을 考慮 別途 稽議에 依해 決定
- 昇格對象者 中 昇格漏落者의 境遇 最上位 評價等級을 B等級으로 制限
- 人事考課에 依한 人員 強制 配分時 考課點數가 같을 경우 前年度 考課點數 反映

5) 昇格 昇給額- 昇格者에 對한 昇格INCENTIVE 反映分

※ 昇格INCENTIVE = (昇格後 該當 職級 1年次 金額) — (昇格前 職級의 標準昇格對象年次 金額)

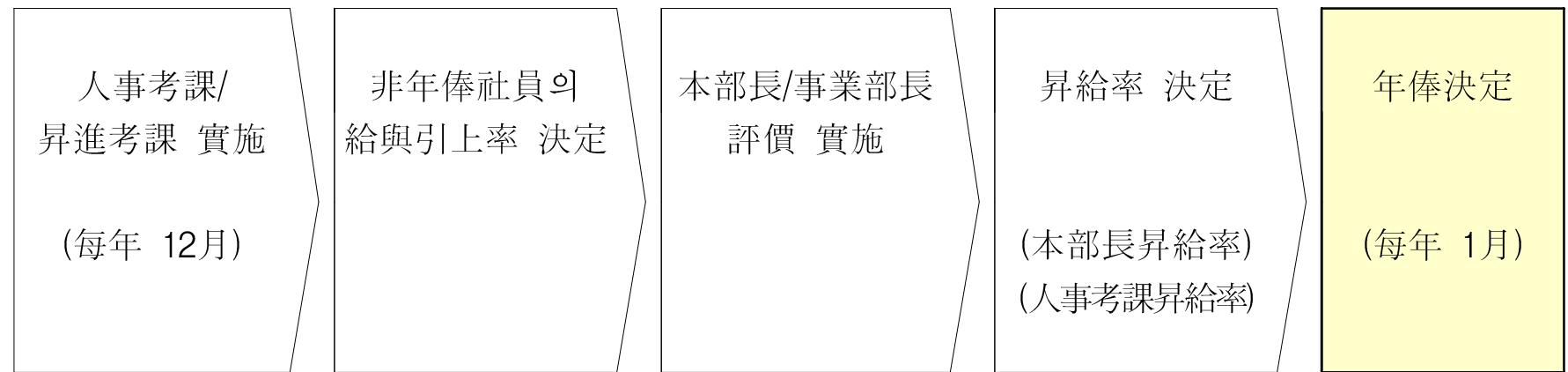
6) 其他 年俸額 決定

- 中途 入社 및 休職 等으로 因하여 評價對象期間동안 業務空白期間이 있었을 境遇 本部長(事業部長) 昇給額 및 考課 昇給額을 「B等級」 으로 看做하여 年俸額을 決定하되, 「Y該當分」 은 反映에서 除外
- 懲戒 等 다음年度 昇次(號)對象에서 除外되었을 境遇 本部長(事業部長) 昇給額 및 考課 昇給額 을 「D等級」 으로 看做하여 年俸額을 決定하되, 「Y該當分」 은 反映에서 除外

7) 年俸額 決定以後 年俸調整事由 發生時

- 特別昇格 等 年俸의 上向調整事由가 發生할 境遇 發生 時點을 基準으로 該當 月給與에 反映 하되, 다음年度 年俸策定時 基準金額을 上向調整된 金額으로 함.
- 懲戒 等 給與의 支給制限(減額)事由가 發生할 境遇 發生 時點을 基準으로 該當 月給與에 反映 하되, 다음年度 年俸策定時 基準金額을 下向調整前 決定年俸으로 함.

8. 年俸額 決定 節次



9. 本部長/事業部長 評價

1) 基本 原則

- 評價SYSTEM에 依存한 評價方式 脫皮
- 本部長/事業部長評價(業績考課)- 年俸額 決定 / 人事考課(能力考課)- 昇格·昇號 決定

2) 評價者 決定

- 本社- 所屬 本部長/事業部長, 現場- 職種 本部長/事業部長
但, 被評價者の 人員이 小數일 境遇 各各의 個別 本部/事業部를 하나의 GROUP으로 統合하여 하여 協議體를 構成 協議하여 評價

3) 評價 段階



4) 本部長 CHECK-LIST 作成(様式 別添)

- 目的

年俸額 決定에 直接의으로 反映되는 本部長評價(年1回 實施)의 公正性 및 客觀性 確保 次元
에서 本部長 CHECK-LIST(年2回- 上半期, 下半期) 作成
即, 다음年度 本部長評價의 基礎資料(CHECK-LIST)로 活用하기 為함.

- 基本 節次
 - ①本部長 CHECK-LIST 作成→ ②本部長 保管·管理(CHECK結果 未提出)→ ③다음年度 1月 本部長評價時 活用
- CHECK項目
 - ①基本 CHECK項目 設定(5個項目)- 年俸決定을 爲해 當然히 CHECK되어야 할 業績達成에 對한 項目과 幹部社員으로서 갖추어야 할 最小限의 能力を 判斷할 수 있는 項目으로 構成
 - ②CHECK項目의 伸縮的 運用- 基本 CHECK項目(5個項目)外에 各 本部에서 自體의으로 CHECK項目 追加 選定 可能
- CHECK 方法
 - ①項目別 CHECK→ ②綜合 等級 賦與→ ③「特記事項」欄 記載
- CHECK 等級- S, A, B, C, D 5等級으로 CHECK

5) 本部長評價(樣式 別添)

- 評價方法

①評價方法은 評價表上의 「評價」 란에 S, A, B, C, D 5段階로 評價

②評價等級別 人員配分

評價等級	S	A	B	C	D
人員配分率	5 %	10 %	70 %	10 %	5 %

•評價等級別 人員配分率에 따른 配分人員을 絶對 超過하지 못함.

- 「特記事項」 欄 活用

①評價結果가 「S」, 혹은 「D」 인 境遇 그 事由를 「特記事項」 欄에 簡略히 記載

②특히 評價結果가 「D」 일 境遇 반드시 當事者の 모든 意見에 對하여 誠實히 面談을 거친
후 措置 및 指導事項까지를 包含하여 記載

6) 評價者 留意事項

- 本部長評價는 年俸制適用社員의 境遇에만 該當되며, 그 結果가 當該年度 年俸策定에 絶對的인 影響을 미치므로 主觀的인 感情을 떠나 職務와 關聯한 具體的인 事實에 立脚하여 公正하고 正確하게 評價
- 評價者は 評價結果에 對하여 追後 客觀的이고 明確한 根據를 提示할 수 있어야 하며 評價對象 期間中에 發生(發揮)한 事實을 根據로 評價하여야 함. <評價對象期間의 邊及 및 延長 禁止>
- 評價者は 被評價者の 勤務意慾, 態度, 業務能力 및 業績 等을 綜合적으로 觀察하고 會社 全體的인 立場에서 評價하여야 함.

10. 年俸制 實施對象 擴大

區分	最初 導入時期	1次 擴大	2次 擴大	3次 擴大
實施時期	96. 1. 1	98. 1. 1	99. 1. 1	2000. 1. 1
對象	1級(部長) 2級(次長)	1級(部長) 2級(次長) 3級(次長待遇)	1級(部長) 2級(次長) 3級(次長待遇), 4級(課長)	1級(部長) 2級(次長) 3級(次長待遇) 4級(課長) 5級(課長待遇) 6級(代理)
人員構成比率 (總人員 對比)	20.34%	27.33%	43.63%	85.27%

11. 向後 課題

1. 能力開發型
評價SYSTEM 開發
(能力考課)

- 現行 人事考課制度의 問題點 檢討
※ 查定型考課 → 能力開發型考課(育成考課), 密密主義 → 公開主義,
相對評價 → 絶對評價, 下向式評價(上司評價) → 多面式評價 等
- 評價의 公正性 및 客觀性 確保를 為한 制度的 裝置 마련

2. 目標評價制度
導入
(業績考課)

- 違行한 業績에 對한 正確한 評價 및 正當한 補償을 為한 根據 마련
- 面談(合意)에 依한 目標設定 및 結果 評價

3. 成果給制度
導入

- 變動的 一時補償制度로 運用(年俸契約時 年俸基準金額에서 除外)
- 年俸制의 補完機能으로써 導入(動機誘發型 INCENTIVE制度)
- 正確한 成果評價表(成果測定指標) 마련

12. 添附

- 1) 本部長 CHECK-LIST (項目別 CHECK基準表 包含)
- 2) 本部長評價表
- 3) 人事考課表 (評價項目에 依한 評價基準表 包含)